

## 2. 調査結果と考察

メダカの出現したメッシュ地図の区画と出現個体数を表9-7に示した。今回は、1区画を更に1/4に細分(a、b、c、d)した区画での出現状況を調べたが、過去の調査結果と比較するため、またメダカの時期的、地理的移動を考慮して、以下大区画での結果として取り扱う。

重点調査区画41のうち20区画でメダカが確認された。出現総個体数を概算すると17,000匹程度となった。20区画の内訳をみると旧宗像市15区画、旧玄海町5区画に分けられる。旧宗像市についてはこれまで数回調査を実施しているが、昨年度の結果では14区画でメダカが確認されているので大きな変動はなかった。旧玄海町についてみると昨年度の出現区画9が今年度は5と半減した。一方、総個体数は増加した。また5区画のうち4区画では、1区画の1/4、すなわちより狭い地域に出現した。図9-6に宗像市全域のメダカ出現状況を示した。図には、今回の調査では出現が確認できなかったが、昨年度確認された区画も併記した。

旧宗像市についてみると1992年の調査から指摘している市周辺地域での過疎化、中央部での過密化は一段と高まっている。具体的には釣川本流、朝町川水系、山田川・横山川及び八並川の標高30m以下の地域に分布し、それもより低標高(10m)の地域に集団の中心が移動していることがうかがえる。釣川本流と山田川が平行する水田地帯及びその周辺が特に過密になっている。旧玄海町では、2年間の調査結果から、釣川最下流部で合流する樽見川及び新川周辺の水田周辺の溝に大集団が多数出現すること確認され、既に過密状況にあるといえる。平地(標高10m以下)の水域における過密化については、今後継続観察していく必要がある。